

2 熊本遺産物語 特別企画

落語家 春風亭 昇太氏 インタビュー

- 6 加藤・細川遺産（ヘリテージ）
- 8 「くまもと歴史50選」

9 第一章「人」

加藤 清正／加藤 忠広
 細川 藤孝（幽齋）／細川 忠興（三齋）／細川 忠利／細川 光尚／細川 綱利／細川 宣紀／細川 宗孝
 細川 重賢／細川 治年／細川 斉茲／細川 斉樹／細川 斉護／細川 韶邦（慶順）／細川 護久

42 第二章「水」

堰とは／渡鹿堰と渡鹿用水／馬場楠堰と鼻ぐり井手／鶴の瀬堰／江津湖／水前寺成趣園
 白川吉見神社（白川水源）／金峰山湧水群／成道寺／お手水／三賢堂／長命水／釣耕園・叢桂園

56 第三章「食」

本丸御膳／細川古料理／からし蓮根／赤酒／馬刺し／伝統野菜／菓子／熊本のお茶
 阿蘇高菜／ひともじのぐるぐる／太平燕／熊本ラーメン／アユ／南蛮柿

70 第四章「文化」

窯元／宮地手すき和紙／来民うちわ／肥後象がん／妙見祭／氷室祭／清正公まつり（加藤神社）
 本妙寺頓写会／金春流／茶道／小堀流踏水術／肥後六花

82 第五章「城」

熊本城の縄張り／熊本城のみどころ／熊本城の一覧
 人吉城／宇土城／矢部城（愛藤寺城）／富岡城／鞠智城／田中城

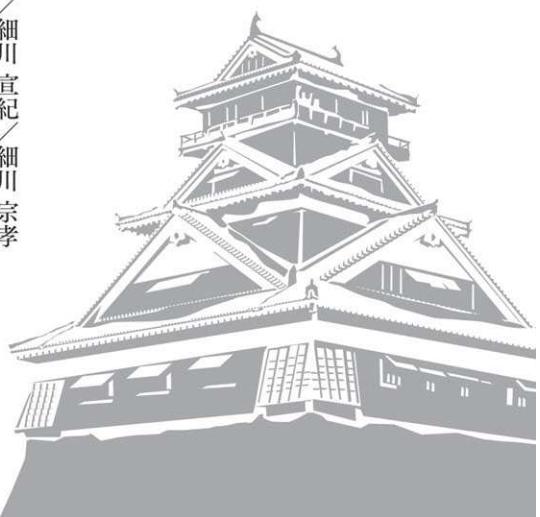
- 89 熊本城のうた
- 90 広域マップ
- 92 加藤・細川 関連施設
- 101 全国の加藤・細川 ゆかりの地

【特集】 加藤・細川ゆかりの地をめぐる

- 16 ① 「土木の神さま？」
- 38 ② 「城下町をめぐる 歩いて熊本発見！」
- 40 ③ 「宮本武蔵をめぐる 武蔵の墓はいずこに？」
- 54 ④ 「御茶屋めぐり 殿様気分を満喫」
- 68 ⑤ 「パワースポットをめぐる」
- 69 ⑥ 「花岡山めぐり」

80 【特集】 刀剣の世界

- 47 コラム 水と農業 通潤橋
- 53 コラム 沢村大学
- 78 コラム 相良家七百年のめでたさ



落語家

春風亭昇太氏

インタビュー

熊本城のある景色があたり前

だと思っっている

地元の方が羨ましい



◆ 何度訪れても新鮮に驚ける

僕が初めて熊本城を訪れたのは大学生の頃だから、もう30年くらい前のこと。それから10回以上は訪れていると思います。不思議なことに熊本城は何度行っても又行きたいと思

思わせる、行く度に新鮮な驚きのあるお城ですね。勿論、平成20年の本丸御殿落成を含め、様々なものが復元されていて、どんどん“見栄え”がよくなっているというのもあるのかもしれないですが、お城好きの僕がむしろ惹かれるのは、本来あつた石垣や塀や櫓の方なんです。熊本城の歴史を知らない人であつても、その石垣を目の前にした時、重機がない時代にどうやって人がこれ運び、積んだんだろう？と考えるだけでもきつと感動するでしょう。宇土櫓とそれを支える美しく

プロフィール

落語家。1959年、静岡県静岡市清水区(旧清水市)に生まれる。東海大学史学科日本史課程中退後、83年に春風亭柳昇に弟子入りし、春風亭昇八と名乗る。86年に二つ目昇進、春風亭昇太に改める。「笑点」の大喜利レギュラーとして活躍する他、最近ではTBS系日曜劇場下町ロケットに出演するなどテレビやドラマ、舞台など幅広く活躍する。(社)落語芸術協会理事。芸能界きっての城好きとして知られ、城の魅力を広めるべく、城郭関係の番組やイベントにも登場。2011年には「城あるきのススメ」を出版した。特に中世の城郭を好む。

反った石垣は何度見ても圧巻の一言ですし、石垣の上に並んだ平櫓の迫力も熊本城ならではのものだと思います。歩いていて気が付くと、いつの間にか自分が石垣に囲われていて

◆ 歴史を知れば知るほど熊本城の魅力がわかる！

”はっ！”と驚くこともあり、これは、もしも敵兵だったとしたら気が付いた時にはいろいろな方角からやられているということ…。その攻めのための造りのすばらしさと、また逆に、本当によくできた防御施設だったのだということも感じます。僕は、行くと必ず石垣の真下に立って櫓を見上げ、当時、熊本城を攻めた兵の気持ちに思いを巡らせるんですよ。ぜひ訪れる人はやってみて欲しいですね。

お城や史跡の価値や魅力というのはそれぞれにあつて、勿論、その大小で価値が決まるわけでもなく、そもそも比較してもあまり意味がないと僕は思うんです。大切なのは、その時代にどういう背景で何が求められ、どういう目的で、どんな人たちが建てたかということであり、また、その建造物が長い時の経過とともにどういう経験をしてきたか、ということではないでしょうか。例えば、その敷地の広さや建物の大きさだけをみるならば、熊本城は大阪城や江戸城に比べると規模は小さいです。けれど、大阪城や江戸城というのは、天下普

請、所謂、国家事業で建てられたお城です。そういう視点からすると、熊本城の一つの価値というのは、何といつても、国家事業ではなく五十四万石の一大名が建てたということにあるんだと僕は思います。それから、熊本城が経験した歴史という部分でとてもめずらしく、忘れてならないのは、近代戦に大きく関わっているということです。熊本城の本丸御殿が焼失したのは、明治10年、西南戦争でのこと。つまり、熊本城は40年前に築城されただけでも、ほんの100年ほど前まで戦闘で使っていたということなんです。この“城としての息の長さ”も熊本城の大きな魅力ですね。



◆熊本城以外でもぜひ訪れて
みたい熊本にあるお城

実は、熊本には熊本城以外でも行ったみたいお城がいくつもあるんですが、仕事のついでにお城に行く事が多いので行けていない城ばかりです。芦北町の佐敷城や山鹿市の隈部館などもいつか行ってみたいと思っています。熊本城は五十四万石の大名が建てたお城ですが、隈部氏のような戦国時代の小領主が建てたお城というのもとても面白いですよ。以前、縄張り図を見たことがあるんですが、枳形虎口と呼ばれるその造りが見事で隈部氏以後の改修もあつたのでしょうか。興味深いですね。熊本には僕にとつて魅力的な場所が沢山あります。そうそう、お城だけじゃなくて、美味しい食べ物が沢山あるのも熊本の魅力ですね。熊本を訪れたら必ず、からし蓮根と馬刺しをいただきます。馬刺しにつける少し甘めのたまり醤油も好きで、自分で煮魚を作る時などにも使っています。ああ、話をしてるうちに、また熊本に行きたくなってきました…。

◆魚の目に水見ええず人の目に空見ええず？

僕は静岡出身なのですが、静岡といえば富士山。富士山がいつもそこにある景色の中で育ちました。つまり、富士山なんて珍しくも何ともない、日常生活に溶け込んだ景色だったのです。でも東京にいると、「今日は富士山がよく見えるから清々しい気分だ」とか「富士山がキレイに見えるからいいことがある」とかいうことをよく耳にするし、今では僕自身もそう思うようになりました。そういう折に触れる度、なるほど、地元にいる頃の僕には富士山が見えてるようで見えていなかったんだ、と思うんです。身近すぎて意外にその存在の偉大さに気がついていないこと、見えていないことってありますよね。熊本城がいつもそこにあるあたり前の景色だと思っちゃいけません！いやあ、それにしてもそんな地元の方々が僕はただただ羨ましい…。

こんなところにもお城愛！

取材の日の春風亭昇太さん。
着用していたスタジャンの内側には、
姫路城の刺繍が！



城あるきのススメ

著 落語家 春風亭昇太
出版 小学館 (2011年)



落語家の春風亭昇太さんが実際に見て回ったお城を紹介。軽妙な言い回しに、お城に興味がない人でもさらっと読めます。天守閣だけが全てではない。中世城郭の土塁や石垣についても熱く、愛情たっぷりに語られています。昇太さんの城への愛を感じられ、読むと近くのお城を探したくなる、そんな1冊です。



さしきょうあと
【佐敷城跡と佐敷東の城】

芦北町にある佐敷城。肥後南部における重要な要塞として加藤清正によって築城されたこの城は、国の史跡に指定され、「佐敷城跡」と名称がつけられている。そこから佐敷川を挟んで東に位置するのが「佐敷東の城」。加藤清正以前の南北朝期に地元豪族であった佐敷氏が築いた城はここではないかと云われている。



枳形虎口▶

くまべやかたあと
【隈部館跡(山鹿市菊鹿町)】

戦国時代に菊鹿市一帯を治めた隈部親永が築城した城で、多くの礎石や庭石、泉水の跡、花園の跡が残っている。城跡は標高340～370mほどに位置する山城で、九州の中世期城郭としては珍しい石垣造りの枳形虎口を持つ。隈部親永は加藤清正が肥後の領主となるきっかけとなった「肥後国衆一揆」の中心人物であった。

加藤・細川遺産（ヘリテージ）

人々が紡いできた、くまもとの歴史。

くまもとに遺る、数々の文化。

これらの「遺産」をこれからも護り伝えていくために：：

熊本県では、加藤家や細川家をはじめとした熊本の歴史や文化を広く知っていただき、より熊本に親しみを感じ、愛着をもってもらうことを目的に

「加藤・細川ヘリテージ（遺産）」プロジェクトとして啓発活動に取り組んでいます。

このガイドブックでは、熊本の先人達が紡いできた歴史を、人物や水、文化、食、城にスポットを当てながら紹介しています。

熊本に散らばる歴史を紐解いて、熊本を再発見してみませんか？